



江渡聡徳衆議院議員「防衛副大臣」再任



えとあきのり 江渡聡徳さん
 生年月日 昭和30年10月12日
 信条 「随処に主となれば 立処皆真なり」
 趣味 読書、映画鑑賞

地元選出の江渡聡徳衆議院議員が、このたび発足した福田新内閣において、引き続き「防衛副大臣」に就任されました。副大臣として多忙を極める中、ごあいさつをいただきました。

秋冷の候、十和田市民の皆さまには、益々清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より私の政治活動にご支持、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年8月29日の安倍改造内閣に引き続き、このたび福田新内閣組閣に伴い防衛副大臣を拝命致しました。これもひとえに皆様の、ご厚情の賜物と感謝申し上げます。

平成8年初当選をさせて頂いて以来、現在3期目を迎えております。この間、国政においては、経済産業委員会理事、議院運営委員会理事をはじめ各委員会の理事等を歴任し、また、自民党国会対策副委員長を2期務めさせて頂きました。

私自身、「地方の繁栄なくして国の繁栄はありえない」との信念のもと、地域振興発展のために汗を流して参りました。特に、2期務めた内

閣府大臣政務官時代においては、青森県をはじめ多くの自治体において、構造改革特別区域（特区）、地域再生の指定を決定し、微力ながら結果を出す事が出来たと思っております。

さて、現在の日本の安全保障における環境は極めて厳しく、防衛省におきましても難問が山積しております。その中において、国民の安全と安心確保、そして、子どもたちの未来のために、全力で取り組み、我が使命を果たす所存でございます。

今後とも、初心を忘れる事なく研鑽を積み重ねてまいりますので、ご指導、ご鞭撻の程賜りますようお願い申し上げます。

十和田市民の皆様方のご健康とご多幸をお祈りし、私のご挨拶と致します。防衛副大臣 衆議院議員 江渡聡徳

安心・安全なまちセーフコミュニティを目指して①

本市は今年度から、セーフコミュニティに向けて市民の皆さんとともに取り組むことにしました。なぜ、今このセーフコミュニティ（新しい安心・安全なまち）の取り組みが必要なのかを説明します。

昨今、わたしたちを取り巻く環境は大きく変化をしており、さまざまな不安があります。

- ▶事故に巻き込まれる子どもが多い。
- ▶自殺が増えている。
- ▶転倒して、介護が必要になった人がいる。

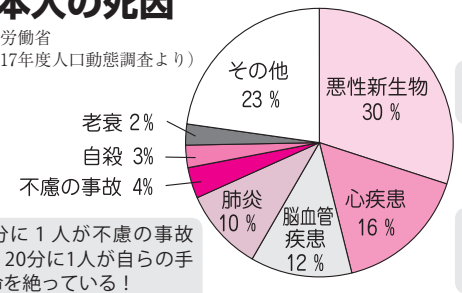
また、死亡原因を見ると病気以外の不慮の事故や自殺などによるものも多い現状です。このような死亡は予防できるという考えのもとに始められたものです。

当市では、これまででもコミュニティ活動が活発に行われてきました。今後は、どんな事故がどんな場所で行われるのかなどをきちんとデータ分析をして、ボランティアのかたをはじめ、さまざまな職種・組織の人たちで役割分担をし、効果的な取り組みを行います。

ここでいう事故とは、交通事故・転倒・溺死・誤飲・火災・他殺・薬物中毒・虐待・自殺・外傷後ストレス傷害・災害などの病気以外のわたしたちの安心で安全な暮らしを脅かすすべての傷害を対象とします。

日本人の死因

(厚生労働省 平成17年度人口動態調査より)



自殺は青森県はワースト2位

15分に1人が不慮の事故で、20分に1人が自らの手で命を絶っている！

14歳未満の死因では不慮の事故が1位

特に、次の2点がポイントです。

1. 地域ぐるみの安心・安全のために職種を問わない事故予防の取り組みです。
2. 科学的なデータを活用します。
 ※これは、けがや事故のデータを活用し、取り組みによる影響や成果を科学的な視点から分析し、市民ぐるみで改善につなげるものです。
 ※広報とわだを通じて、セーフコミュニティに関するコラムを連載していきます。耳慣れない言葉ですが、市民のみなさんと一緒に理解を深めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。